

---

# 好きなアニメ・ゲームキャラクターで逃走中

ソニック

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

好きなアニメ・ゲームキャラクターで逃走中

### 【Nコード】

N4244Y

### 【作者名】

ソニック

### 【あらすじ】

舞台はあの人気テーマパークユニバーサルスタジオジャパン。

ユニバーサルスタジオでこの小説を書いた作者が好きなアニメとゲームのキャラが

逃走中に参加する、そして誰が逃げ切れるのか。



## 逃走者紹介（前書き）

逃走者の紹介です

## 逃走者紹介

スマブラX  
マリオ  
ルイージ  
ピーチ  
クッパ  
ワリオ  
リンク  
トウーンリンク  
ドンキーコング  
デューク  
サムス・アラン  
フォックス  
ファルコ  
ウルフ  
ロボット  
ゲーム&ウォッチ  
ポポ  
ナナ  
マルス  
アイク  
ピカチュウ  
ルカリオ  
ピット  
カービィ  
メタナイト  
ネス  
リユカ

スネーク

ソニック・ザ・ヘッジホッグ

ソニック

テイルス

ナックルズ

エミー

シャドウ

シルバー

エスピオ

ベクター

チャーミー

ロクマンX

エックス

ゼロ

アクセル

ドラゴンボール

孫悟空

ベジータ

トランクス(未来)

ピッコロ

孫悟飯

バーダック

ブロリー

パラガス

ぷよぷよ!!(20周年version)

アルル・ナジャ  
アミティ  
あんどおりんご  
ラフィーナ  
アコール先生  
シグ  
クルーク  
フェーリ  
レムレス  
ささきまぐろ  
ドラコケンタウロス  
サタン  
ルルー  
ウィッチ  
シェゾ・ウィグイイ  
リデル

新機動戦記ガンダムW（TV版）

ヒイロ・ユイ  
デュオ・マックスウェル  
トロワ・バートン  
カトル・ラバーバ・ウィナー  
チャンウーフェイ  
張五飛

絶体絶命でんじやらすじーさん  
じーさん

孫

校長

ゲベ（8頭身）

ボボボーボ・ボーボボ

ボーボボ

首領パツチ

ところ天の助

デッドライジング

フランク・ウエスト

## 逃走者紹介（後書き）

次回本編スタート。

## ゲームスタート（前書き）

さあ、いよいよ本編です。

## ゲームスタート

午後5時00分

ユニバーサルスタジオジャパン

そこを貸切でとあるゲームが開始したその名も

逃走中

ここユニバーサルスタジオで150分間逃走を行う、

逃げ切れば賞金が貰える、ただしハンターにつかまれば賞金は0となる。

ハンターの人数は4体。

そして今参加者は4体のハンターが封印しているハンターボックスの前にいる、そしてハンターボックスの前にボタンがある。

そのボタンは押した1分半後にハンターが放出するボタンである。

そして今そのボタンを押す代表者がランダムで決まった、その代表者は。

デュオ「へっ？俺。」

デュオだ

そしてデュオはハンターボックスの前にいてそのボタンを押す

デュオ「よーし、じゃあ押すぜ！ー！」

デュオの声と共に他の逃走者は逃げる準備をしていた。

ポン、

デュオがボタンを押したと同時に全逃走者はハンターボックスから走って逃げた。

なおハンターはさっき行ったように押して1分半後に放出する。

逃走者はそれぞれに散った。

デュオ「なんで俺を代表として選んだんだよ。」

何で自分を代表にしたかと思ってるガンダムのパイロット。

そこへ

りんご「あれ？デュオ君じゃない。」

デュオ「よおりんごか、偶然に会ったな。」

りんご「本当偶然だね。」

デュオ「ホントだな。」

りんご「偶然会ったんだし一緒に行動しない？」

デュオ「ん一緒にか、ああ別にいいぜ。」

りんご「ありがとうデュオ君。」

デュオ、りんごと合流

ソニック「一緒に頑張ろうぜアミティ。」

アミティ「うん」

この2人はすごい仲良しでやっぱり一緒に行動している

悟空「へへ、ワクワクすっぞ」

逃走中でワクワクしている最強の男

そして

プシューーーーーー

ドンッ！！

ボタンを押してから1分半が立ち4体のが解放された。

4体のハンターはすぐさま逃走者確保へと向かう

プルルルル

ヒロ「メールか。」

エックス「ボタンを押してから1分半が立ち・・・」

アイク「4体のハンターが解放された・・・」

孫「これより逃走中を開始する。」

ゲームスタート



## ゲームスタート（後書き）

感想をお願いします。

## part - 1 (前書き)

いよいよ始まった逃走中、誰が逃げ切れるのか。

## part - 1

遂に始まった逃走中

72名の逃走者の中で逃げ切れる者は誰だ。

ゼロ「ついに始まったか。」

ベジータ「カカロットより長く生き残ってやる。」

逃走中でもライバル視を持つサイヤ人の王子

天の助「どこかに隠れねえと。」

隠れ場所を探すところてん。

天の助「お、いい隠れ場所があったぞ。」

そして見つけた

アクセル「せっかく逃走中に参加したんだからせめて長く生き残らなきゃね。」

果たして彼は長く生き残れるだろうか

フランク「カメラマンの底力見せてやるぜ。」

自信満々の超人カメラマンその常人離れた体力と強靱な精神力  
卓越したサバイバル術によってゾンビの住みかとなったシヨッピン  
グモールから無事生還を果たしたその能力は逃走中ではどう活躍す  
るのか。

天の助「うわ、ハンターが居るよ。」

天の助が隠れているとこの近くにハンターがいた

天の助「よし、通り過ぎたな。」

ハンターが通り過ぎたと思い移動をする

そして

ハンター「!!」

見つかった

天の助「ぎゃあああああああああああああ、早速追いかけて来た――」

天の助はスピードを上げて逃げるがハンターの足は早いそして距離は縮まっていくそして

天の助「ぎゃあああああああ……!!」

ポン

ところ天の助確保残り71人  
天の助「ガーーーーーン」

ブルルルルル

トロワ「確保情報・・・」

シャドウ「ジュラシックパーク付近で・・・」

ドラコ「ところ天の助確保。」

ボーボボ「やっぱあいつダメ野郎だな。」

アミティ「早くも1人捕まっちゃったね。」

ソニック「ああ、しかも最初はやっぱあいつか。」

デュオ「ええ、もう早くも1人捕まっちゃったのかよ。」

りんご「うん、天の助君が確保されたみたいよ。」

デュオ「あいつか、最初に確保されそうな感じしてたしな。」

続く

## part - 1 (後書き)

次回最初のミッションが開始する。

## part - 2 (前書き)

最初のミッションが始まる

## part - 2

数分後

突如エリア内に映し出された7つのハンターマーク

プルルル

ワリオ「お、メールだ。」

ファルコ「今度はなんだ。」

ヒロ「ミッション1、ミッションが来たか・・・」

ナックルズ「エリア内への巨大ハンターマークが映し出された・・・」

アクセル「残り130分までにマークを消さなければ・・・」

ルルー「残ったハンターマークと同じ数のハンターを放出する・・・」

フランク「マークは全てで7つ・・・」

カトル「マークは1から7までナンバリングされており・・・」

ルイージ「順番に消さなければならない急ぎたまえ、ええ！？てことは7体増えれば合計11体に！！」

ミッション

ハンターマークを消去せよ

これより130分までに7つのハンターマークを消さなければ残った数と同じハンターが放出される

ただしハンターマークを消すには1から7まで表示されているマー

クの切り替えレバーを下ろさなければならない

ハンターマークを消さなければ最大7体のハンターが放出される

ヒロ「任務了解。」

ゼロ「勿論行くぜ!!」

シルバー「よし、行くか!!」

フランク「行くぜ!!」

ルイージ「行こう。」

ワリオ「行かねえよ。」

パラガス「勿論私はいかない。」

行くか行かないかは自由だ。

デュオ「どうする?」こはやっぱり行くか。」

りんご「うん、勿論行った方が・・・てハンターが居るよ!!」

デュオ「マジかよ!!」

2人はいち早くハンターを見つけ移動をしただが

ハンター「!!」

見つかった

デュオ「ヤベエ見つかった、ここは二手に分かれるぞ」

りんご「うん!!」

そして二手に分かれた、そしてハンターが標的にしたのは

りんご「嘘!こっちに狙ってきた!!」

りんごだ

このままではりんごは捕まってしまう

と、その時

???「こっちだ、こっちに隠れる!」

りんご「えっ!」

突如隠れ場所から声が聞こえりんごは戸惑ったが声に従いりんごは隠れた

ハンターからの視界から見失ったようだ

そしてりんごを助けた声の人物は

エックス「無事で良かった。」

エックスだ

りんご「エックス！？じゃあさっきの声はエックスだったの。」

エックス「ああ、君がハンターに追いかけられたのを見かけそこで声を出して助け出したってことになるな。」

りんご「でもどうしてそんなことを、下手をすればエックスまで捕まるところだったんだよ。」

エックス「俺は誰かを助けるためならハンターに見つかるのを承知で君を助けたんだ。」

りんご「そうか、ありがとうエックス。」

エックス「とりあえず一緒に行動しよう。」

りんご「うん。」

りんご、エックスと合流

りんご「それと友達になってくれる？」

エックス「ああ、喜んで。」

りんご「ありがとう。」

そしてりんごはエックスと友達になった

りんご「ねえ？あれハンターマークじゃない。」

エックス「ん、ほんとだしかもナンバリングは1だ。」

なんと2人は偶然ハンターマークナンバリング1の停止レバー見つけた

エックス「よし引くぞせーの」

ガシャン

ナンバリング1停止

残り6個

りんご「やったね！」

エックス「ああ。」

part - 2 (後書き)

残り6個停止出来るか

part - 3

ブルルルルルルル

五飛「メールか、ハンターマークナンバリング1停止、早いな。」

マルス「て事は、残り6個か。」

ナンバリング停止はメールで知らされる

マリオ「よし俺もミッションで活躍してやるぜ!！」

やる気満々のスーパースター

だが彼の後ろの近くに、ハンターが

まだ彼は後ろにいないことを気づいていないそして、

ハンター「!!」

見つかった

マリオ「ん、うわヤベエハンターだ!!」

マリオが逃げた先に

じーさん「あ、ハンターに追われてる。」

じーさんがいた、そしてじーさんは壁に隠れた。

マリオ「ヤベエ！行き止まりだ!!」

マリオが逃げた先は行き止まりだ。

マリオ「うわあああああ!!!!!!」

ポン

マリオ確保残り70人

マリオ「最悪だ」

ゲーム界のスターここに散る

ブルルルル

カトル「確保情報だ」

アコール先生「ジュラシックパーク付近にて・・・」

エスピオ「マリオ確保。」

ルイージ「ええ！？兄さんが！！」

まぐろ「マジで！？マリオが！」

トランクス「まだ驚きが隠せない、あの人が早くも捕まるなんて。」

全員驚きが隠せないようだ

ラフィーナ「あらデュオさんじゃない、どうしたんですのそんなに息切らして。」

デュオ「ラフィーナか、さっきハンターに追われて全力で逃げたからゼエゼエ、すっげえ疲れてんだよゼエ。」

ラフィーナ「そうだったんですの、所でミッションに行く所なんですけど一緒に行きませんか？」

デュオ「ああ、いいぜ俺もミッションに行くつもりだったからな。」

デュオ、ラフィーナと合流

アミティ「あ、あったハンターマークナンバリング2を見つけたよ。」

」

ソニック「よっしゃ、でかしたぜアミティ！」

2人はマークナンバリング2を見つけた

ソニック「これが停止レバーか、よし引くぜ、せーの」

ガシャン

ナンバリング2停止、残り5個

ソニックアミティ「イエーイ」

2人は息動向のハイタッチをした

## part - 3 (後書き)

残りの5つも停止出来るか

part - 4 (前書き)

ハンターマーク残り5個

part - 4

プルルルルルル

フォックス「ハンターマークナンバリング2停止残り5個。」

アイク「意外と早いな。」

ウルフ「だったら次消すのはナンバリング3か。」

マークは番号順に消さなければならない

レムレス「あれ、君はバーダックじゃないか。」

バーダック「おう、レムレスじゃねえか、どうした。」

レムレス「ハンターマークを消しに行くところだけど君も行くのかい。」

バーダック「当たり前だろハンターが増えちまったら厄介だからよ。」

レムレス「じゃあ、僕が3番を消すから君は4番を消してくれないかな?。」

バーダック「お前が3番で俺が4番を消すか、よっしゃ引き受けたぜ。」

レムレス「ありがとう。」

そして2人の後ろにハンターが

だが2人は気づいていない

そして

ハンター「!!」

見つかった

バーダック「あん？、おいヤベエぞハンターが来た!!」

レムレス「え！？嘘!!」

そして2人は気づき二手に分かれて逃げた

そしてハンターの標的は・・・

バーダック「おいおい、マジかよ!!」

バーダックだ

バーダック「クソツタレが、このまま捕まっただまるかよ!!」

バーダックはスピードを上げ建物を利用して逃げた

ハンター「……」

うまく逃げ切れたようだ

バーダック「ヘッ、ざまあ見やがれ」

レムレス「ふう、危なかった、ん、あれはナンバリング3。」

レムレスは偶然ナンバリング3停止レバーを見つけた

レムレス「ラッキー、じゃあ早速レバーを引くか、せーの」

ガシャン

ハンターマークナンバリング3停止残り4個

プルルルルルル

アクセル「なになに、ナンバリング3停止残り4個」

ドラコ「え？もう残り4個まで行ったの早っ。」

エックス「もう3つも停止か。」

りんご「この調子だとミッションクリアになりそうだね、ん？ねえエックス。」

エックス「どうした？りんご。」

りんご「あれ、パラガスじゃない？。」

2人はパラガスを見かけた

パラガス「よし、ここなら見つからないな」

エックス「おい。」

パラガス「うお！？なんだエックスとりんごか。」

りんご「何やってるの？。」

パラガス「実は隠れ場所を探していたのだ」

りんご「へえ、そうなんだ。」

エックス「なあ、ミッションは行かないのか？」



## part - 4 (後書き)

感想をお願いします

part - 5 (前書き)

ハンターマーク残り4個

## part - 5

現在ハンターマーク残り4個

時間残り137分

130分経過まで残り7分前

メタナイト「ハンター放出まで残り7分、そしてハンターマークは残り4個か」

時間とマークの残りを確認するメタナイト

そして彼の後ろにハンターが

まだメタナイトは気づいていない

ハンター「!!」

見つかった

メタナイト「ん、しまった、まさか後ろにいたとは。」

メタナイトはハンターに気づき逃げるが短距離で見つかってしまい  
距離が縮まっていく、そして

メタナイト「うわあああああ!!!!!!」

ポン

メタナイト確保残り69人

メタナイト「不覚・・・」

プルルルル

ワリオ「お、メールだ・・・」

ゼロ「バック・トゥ・ザ・フューチャー至近にて・・・」

カービー「メタナイト確保、え！？嘘、メタナイトが。」

ゼロ「次に消すことが出来るのはナンバリング4か。」

急いでナンバリング4を探しているゼロ

その頃

エックス「チヨ、行きたくないもんで、何子供みたいな言い方してんだよ氣落ちわりいな!!」

りんご「いい大人で親がそんなこと言っでどつするのよ。」

パラガス「だって、迂闊に動いたらハンターに見つかったってしま  
うし。」

エックス「だからって、んな情けねえ言い方するな!!」

情けないことを言うパラガスを怒鳴るエックス

そしてりんごはエックスの肩を叩いた

りんご「エックス、もう行こうこんな言い合いしたって拉致がない  
よ。」

エックス「そうだな、じゃあなパラガス。」

そして2人はパラガスと別れた

牢獄

メタナイト「くそ」

メタナイトは捨て台詞を吐きながら牢獄に入った

マリオ「お前も捕まったのか。」

メタナイト「そういうマリオこそ以外だぞまさかお前が早く捕まってしまうとは。」

マリオ「逃げれそうだったんだけど行き止まりで捕まったんだよ。」

天の助「俺だって最初に捕まったんだぜ悔しい。」

## part - 5 (後書き)

感想をお願いします

part - 6 (前書き)

ハンターマーク残り4個

## part - 6

ハンターマーク残り4個

現在135分ハンター放出まで残り5分

ゼロ「ナンバリング4一体どこに、ん、あれはナンバリング4遂に見つけたぜ。」

ゼロはようやくハンターマークナンバリング4を見つけた

ゼロ「レバー・・・これが。」

ガシャン

ハンターマークナンバリング4停止残り3個

ゼロ「よし。」

プルルルル

ウルフ「お、なんだ・・・」

ドンキー「ナンバリング4停止残り3個。」

シャドウ「ということは、今消せるナンバリングは5か、よし5番を消すか。」

ナンバリング5を消しに行くシャドウ

クツパ「ハンターマークはどこに・・・」

ハンターマークを消しに行くクツパ

だが彼の目の前にハンターが

そして

ハンター「!!」

見つかった

クツパ「で、おわあああああああああ！……！」

クツパはハンターに気づいたがクツパの足は遅く当然距離が縮んでいく

そして

クツパ「ぎゃあああああああ！……！」

ポン

クツパ確保残り68人

クツパ「くそ」

迷惑大王ここに散る

プルルルル

悟飯「確保情報だ・・・」

ウィッチ「スペース・ファンタジー・ザ・ライド付近にて・・・」

ナツクルズ「クツパ確保残り68人。」

ルイージ「うわぁ、クツパまで。」

ブロリー「あのダメ親父はどこにいるんだ」

父パラガスをダメ呼ばわりする伝説の超サイヤ人

ブロリー「あのダメ親父はバカでどうしようもないほど情けなくおまけに変態だからな。」

ソニック「おっと、前にハンターがいたか、ここは隠れようぜアミティ。」

アミティ「うん。」

仲良しコンビの2人はハンターをいち早く見つけさっそうと隠れた

## part - 6 (後書き)

感想をお願いします

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4244y/>

---

好きなアニメ・ゲームキャラクターで逃走中

2011年11月23日21時55分発行